

知りまじきじぬ湯朱印とてあまふ
同十六年九月二十日年七十七うして死す
法名を降久といふ寛永其子久三市信
と長谷川源俊正とて養子とあり二男
藤九市正次は別の家を起す故に二男
刑部正登遠跡を承け正登寛永十六
年父の代を承け勝折君と仕へありまふ

家譜 今の小幡清長谷川
金太市正愛の祖なり

伊多清宣次は紀伊と正長と二男あり
駿河よける天正十年十七歳の時より
東照宮と仕へしとあり同十八年由
原に進發し供奉し慶長十七年八月
四十七歳よりして死す寛永法名日華と
し家譜其子伊多清宣元も駿河に生れ
十六歳より

台徳院殿より清久とあり寛永也小姓と

初め家大坂幕後の政は涉借子候にのり

仰よりて駿河大納言忠長卿に仕へ

寛永寛永九年彼卿事より後山勘事

と幕り同十二年十一月赦免らるる家

石川たれ

大猷院殿に仕へり寛永同十六年

七月二十四日氣を病みて死す寛永法名

日元家其子候を信宣重い武元

生れ寛永十六年正月

大猷院殿に仕り寛永山書院の

番士とありて送跡に仕り家今の西城

伊山納戸長谷川
平藏宣義の祖也

續は正右に紀伊も正長の三男あり駿河

よき寛永天正七年

右徳院殿に附屬せられたるに而して

涉小姓とありけり十二歳あり後